

自閉スペクトラム症当事者からみた 特別支援教育

NPO法人東京都自閉症協会
役員 綿貫 愛子



独立行政法人教職員支援機構

目次

- 1 自己紹介
- 2 本人の体験世界を知り、リスペクトする
- 3 社会的カモフラージュ
- 4 ニューロダイバーシティパラダイム
- 5 自分らしく生きることを支える特別支援教育

1 自己紹介

- **神経発達症（発達障害）当事者**

自閉スペクトラム症（ASD）

注意欠如・多動症（ADHD）

限局性学習症（SLD）

発達性協調運動症（DCD）など

- **心理職**

公認心理師、国家資格キャリアコンサルタント、
臨床発達心理士、学校心理士

- **家族**

こだわりと不安の強い家族が、特別支援学校に在学中

1 自己紹介

- 子どもの頃から「天然」「変人」「マニアック」と言われ、日々トラブルは多かったが、困り感の自覚はなし。
- 学校の授業を受けて、「わかった」「できた」と思えた経験がなく、自分なりの学習方法をつくって対応してきた。

☆ Learning Difference（学び方の違い）

- 大学生のとき、「発達障害」のある子ども達の支援に携わり、自分にASDなどがあることを知っていく。
- 現在は、教育や福祉の現場で、「**自分らしく生きること**」を支援し、啓発する活動をしている。

2 本人の体験世界を知り、リスペクトする

◇ 私たちの「症状」のなかにあるもの

- 自分の「発達障害」を知って、まず驚いたのは、自分が当たり前に行ってきた行動に専門用語があること。
- 障害概念であるため、私たちの行動は基本的に「症状」として、困難や欠如ということばで説明される。
定型発達を基準に、「異常」や「問題」と扱われる。
- 最初、専門家が外側から観察し、説明するASD像と、私の内側にある世界はなかなか結びつかなかった。
- ▶ 私たちの行動は否定されがちであるが、本来的にはすべて意味があり、「必要」で生じている！

2 本人の体験世界を知り、リスペクトする

◇ 自己刺激行動 (self-stimulatory behavior)

- ASDや他の神経発達症でよくみられる、繰り返しの動作や行動のこと。スティミングとも呼ばれる。
 - ジャンピングやフラッピング、ロックング、遅延性エコラリア、特定の音を出す、特定の素材に触れる、物を回転させるなど、たくさんある。
 - 自分の感覚運動や思考、行動を調整するために、“半随意”で身体が動く。
 - 緊張や興奮、不安、疲労、ストレスが高くなると、強くみられる。
- ☆ 不快なときも、嬉しい・楽しいときも、身体が動く！

2 本人の体験世界を知り、リスペクトする

◇ 自己刺激行動 (self-stimulatory behavior)

☆ 自己調整の戦略 (self-regulation strategy)

- ▶ 行動自体をなくそうとするのではなく、まず、いまの本人の心の動きに寄り沿っていただきたい。
- ▶ 調整を必要とする状態・状況がそこにあるということに目を向け、外部からも調整にご協力いただきたい。

2 本人の体験世界を知り、リスペクトする

◇ 人の目を見ないことで、会話に参加しやすくなる

- ASDでは、「他者の目を見ない」ことが観察される。
 - 私自身は、まず知識として、他者の目を見る必要があることを知らなかった。
 - いざ、他者の目を見ると、視界が歪み、瞬きが増え、強い不快感に襲われた。会話に注意集中することがまったくできなくなった。
- ▶ 人の目を見ないコミュニケーションスタイル、および戦略によって、会話に参加しやすくなる。また、他者の話をよく聞くことができる。

2 本人の体験世界を知り、リスペクトする

◇ 人の目を見ないことで、会話に参加しやすくなる

- **Kliemann et al. (2012)** は、ASDのある人は、目を長く見つめることが苦手であり、これは感情処理に関連する、脳の活動（特に、扁桃体の過剰反応）と関係している可能性を指摘している。

☆ 視覚的なオーバーロード（sensory overload）

Kliemann, D., Dziobek, I., Hatri, A., Baudewig, J. & Heekeren, H.R. (2012) The role of the amygdala in atypical gaze on emotional faces in autism spectrum disorders. *The Journal of Neuroscience*, 32(28), 9469–9476.

3 社会的カモフラージュ

- ASDのある人々のリソースは、社会的多数派の方法論を身につけることに大きく消費されてきた。
 - 最近の研究で、ASD特性を、カモフラージュ、またはマスクし、より定型発達的に見えるようにしようとする試みは、ASDのある人々の疲労や燃え尽き症候群、不安、抑うつ、ストレス、幸福度の低下、自殺傾向に関連する可能性が指摘されている。
- ☆ 支援者は、支援が「障害状態」をつくってしまう可能性に、もっとセンシティブでなければならない。
支援は「コワイ」ものである。

3 社会的カモフラージュ

- 自閉スペクトラム状態（ASC）のある成人は、**社会**場面でASCに関連する行動を隠したり、社会的に有能であるように見せる明示的な方法を用いたり、また、他者に社会的な困難さを見られないように努めたりする、**カモフラージュの戦略**をもっている。

短期

その目的をしばしば達成させても、極度の疲労と不安をもたらす。

長期

メンタルヘルスや自己認識、支援資源に繋がることへの深刻な影響を与える可能性がある。

Hull, L., Petrides, K. V., Allison, C., Smith, P., Baron-Cohen, S., Lai, M. & Mandy, W. (2017)
“Putting on my best normal” : social camouflaging in adults with Autism Spectrum Conditions.
Journal of Autism and Developmental Disorders, 47(8), 2519–2534.

3 社会的カモフラージュ

◇ 燃え尽き症候群

- ASDのある成人は、**過剰な社会の期待に応えようと、日常生活で無理を重ねて疲れ果ててしまう。**
- **自分本来の**思考と記憶、計画の作成と実行、日常生活の活動、人付き合い、セルフケアなど、**幅広いスキルを喪失する経験**をしている。
- 自殺行為を含む、心身の健康や自立生活能力、QOLを低下させる。

3 社会的カモフラージュ

◇ 燃え尽き症候群

- 社会の受け入れが進み、期待が軽減されることや、ASD的な方法で物事を行えることは、ASDの燃え尽き症候群からの回復に関連する。

Raymaker, D.M., Teo, A.R., Steckler, N.A., Lentz, B., Scharer, M., Delos Santos, A., Kapp, S.K., Hunter, M., Joyce, A. & Nicolaidis, C. (2020) “Having all of your internal resources exhausted beyond measure and being left with no clean-up crew” : defining autistic burnout. *Autism Adulthood*, 2(2), 132-143.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

- 神経学的な差異を、障害や機能不全ではなく、ヒトの多様な変異のあり方として認識し、尊重する。
 - 必ずしも支援／治療する必要があるわけではなく、新しいタイプの自立のあり方を示すことや、自分自身についてどんな支援を受けるか、あるいは受けないかなどをより自由に選択できる。
 - ▶ **ニューロダイバーシティパラダイム**のなかで、ASD概念を多角的に検討し、捉えなおそうとする研究動向が生じている。
- ☆ 自閉的共感（autistic empathy）、自閉的社会性（autistic sociality）

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 二重共感問題 (double empathy problem)

- 共感やコミュニケーションには、**双方向性**がある。
- ASDだけに問題があると考え、普遍的な「心の理論の欠如」神話ではなく、異なる世界の見え方や感じ方、経験をもつ社会的行為者間の相互作用に基づく。

☆ 単一の共感問題ではなく、「二重の共感問題」である。

Milton, D. (2012) On the ontological status of autism: The 'double empathy problem'.
Disability & Society, 27(6), 883–887.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 二重共感問題（double empathy problem）

- ASDのある人々と定型発達の人々の**相互作用**を検証。
- ASDのある人々は他のASDのある人々との交流を好む傾向があり、そこでは、密接な社会的絆と共感を経験することが報告された。
- ASDのある人々同士は、お互いに情報をうまく共有し、良好な関係を経験するスキルをもっていること、ASDと定型発達の人々では、**相互作用のスタイルに違い**があることを示唆している。

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 二重共感問題 (double empathy problem)

Crompton, C.J., Ropar, D., Evans-Williams, C.V., Flynn, E.G. & Fletcher-Watson, S. (2020) Autistic peer-to-peer information transfer is highly effective. *Autism*, 24(1), 1704–1712.

Morrison, K.E., DeBrabander, K.M., Faso, D.J. & Sasson, N.J. (2019) Variability in first impressions of autistic adults made by neurotypical raters is driven more by characteristics of the rater than by characteristics of autistic adults. *Autism*, 23(7), 1817–1829.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ ASDは共感する「類似性仮説」

- **Komeda, et al. (2015)** は、相互性や類似性に注目し、ASDのある人々の共感の存在を明らかにした。
- ASDのある成人は、ASDの特徴のある人物を判断する際に、共感や自己意識に関わる、腹内側前頭前野が有意に活動した。
- ▶ 自分と似た症状や性格特性をもつ他者には共感し、
自動的にその人物について、理解することができる。
- ▶ 似ていない他者には共感することが難しく、先行する
手がかりから、分析的にその人物を理解する。

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ ASDは共感する「類似性仮説」

- 回答反応では、ASD群は、定型発達（TD）文にも理解を示している。
 - ▶ 共感はしないが、分析的に理解はできる。学んできた「社会性」を発揮！
- その一方で、TD群は、ASD文に“全く”理解を示していない。
 - ▶ 自分と違う他者に対し、排他的である。
- ▶ **共生社会**に向けて、ASDのある人々だけが変わる努力をすればよいのか？

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ ASDは共感する「類似性仮説」

Komeda, H. Kosaka, H., Saito, D.N., Mano, Y., Fujii, T., Yanaka, H., Munesue, T., Ishitobi, M., Sato, M. & Okazawa, H. (2015) Autistic empathy toward autistic others. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 10(2), 145-152.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

- ◇ **ASDという一つの社会性は人類進化に貢献してきた**
- 共同道徳（collaborative morality）の社会は、
向社会性に対するさまざまな適応戦略の触媒となり、
人材の多様性を広げる。
- ASD的傾向のある人材も、その一つのタイプとして
必要とされ、大勢に流されず、イノベーションを
起こし、確固たる法則に基づいて社会を導くことで
貢献してきた。

4 ニューロダイバーシティパラダイム

- ◇ **ASDという一つの社会性は人類進化に貢献してきた**
- 複雑な心の理論がこそ、向社会的であり、選択的に有利であるという仮定から離れると、人間社会における**さまざまな向社会的戦略や、個性の多様性の複雑さを理解し始めることができる。**

Spikins, P., Wright, B. & Hodgson, D. (2016)

Are there alternative adaptive strategies to human pro-sociality?

The role of collaborative morality in the emergence of personality variation and autistic traits. *Time and Mind* 9(4), 289-313.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 何が有意義な人生を構成するのか

- ニューロダイバーシティパラダイムは、**ASDのある人々の人生経験の本質**を理解し、彼らにとって何が有意義な人生を構成するかについての議論を進める。
- これまで、**幸福とQOL**は、職業や自立、人間関係などの結果を含む客観的な構成要素として提示されてきたが、ASD特有の価値観や目標、ニーズを考慮に入れると、より広い範囲の潜在的な要素に気づき、この見方は変わる可能性がある（Lam, et al., 2021）。

☆ **多様な表現方法や生き方が肯定され、ASDらしく、自分らしく生きていくことを支える支援のあり方について、もっと考えていく必要がある。**

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 何が有意義な人生を構成するのか

Lam, G.Y.H., Sabnis, S., Migueliz Valcarlos, M., & Wolgemuth, J.R. (2021)
A critical review of academic literature constructing well-being
in autistic adults. *Autism in Adulthood*, 3(1), 61-71.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 社会的報酬により、認知制御や動機づけが高まる

- ADHDのある人々では、他者からの肯定的な表情や、感謝のことばなど、社会的報酬によって、認知制御が大きく改善する。
- 課題遂行に関連する自己評価の動機づけは、著しく低かった（Kohls et al., 2009）。
- ADHDのある人々では、自分への高い金銭的報酬が期待できるときに、認知制御が低下する（前原・梅田, 2012）。

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ 社会的報酬により、認知制御や動機づけが高まる

- ▶ 周囲の人々の在り方や関わりが、パフォーマンスに大きく影響する。
- ▶ 自己認識の難しさ、そして、“他者ととともに”、でも“自分のために”力を発揮すること・生きることを支える、認知制御や動機づけの方略を、本人と一緒に見出していく。

Kohls, G., Herpertz-Dahlmann, B. & Konrad, K. (2009) Hyperresponsiveness to social rewards in children and adolescents with attention-deficit/hyperactivity disorder (ADHD). *Behavioral and Brain Functions*, 5(1), 20.

前原由喜夫・梅田聡 (2012) PD-081 大学生のADHD傾向と報酬予期下における作動記憶の個人差. 日本教育心理学会総会発表論文集 54, 441.

4 ニューロダイバーシティパラダイム

◇ Learning Difference（学び方の違い）



合同出版 「LDの子が見つけたこんな勉強法」
野口晃菜 (著), 田中裕一 (著)

5 自分らしく生きることを支える特別支援教育

◇ キャリア（career）とは

【狭義】ワークキャリア

- ・ 職業、職務内容、職歴・経歴、進むべき進路・方向性。
- ・ そこに付随するさまざまな要素（経験、資格、業績、学歴、技能・知識など）。

【広義】ライフキャリア

- ・ 「生涯・個人の人生とその生き方そのものと、その表現のしかた」

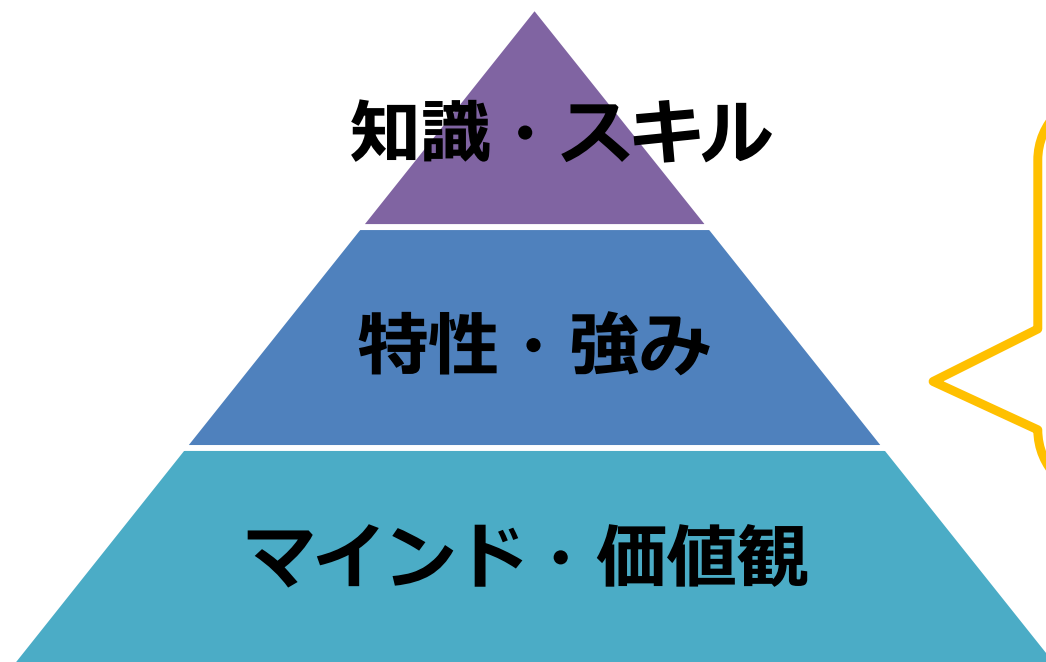
▶ 日々の生活や、社会活動における多様な役割を含めた、その人の「生き方」全体を表す概念。

☆ **ライフキャリア**のなかに、ワークキャリアがある。

5 自分らしく生きることを支える特別支援教育

◇ キャリアデザインの構成要素

- キャリアデザインとは、
いまこれからの自分の「**ありたい姿**」「**自分らしさ**」
「**生きがい**」を実現するために、どのような仕事や
家庭生活、地域社会との関わり・活動をするかなど
目標設定を行い、実現に向けてデザインすること。



昨今は、「知識・スキル」に偏重した支援が多いが、**大切なのは基盤を育むこと**であり、それは教育の場が資するところである。

5 自分らしく生きることを支える特別支援教育

◇ 個別の（教育）支援計画を見直す

- 特別支援教育とキャリア教育は、密接に関係する。
- ▶ 個別の教育支援計画は、本人の“ライフキャリア”を踏まえた目標や課題の設定になっているか。
- ☆ “本人のストーリー”が描かれていること！

手段：教育や支援

目的：「ありたい自分」や「大切にしたいこと」
を実現すること、幸福やQOLを高めること

- ▶ 本人の“幸福追求や自己実現”（Well-being）のために、教育や支援は提供される！